

まちだの新たな学校づくり鶴川地区小中学校計画の開かれた議論を求める請願

【請願趣旨】

2024年2月7日付けで、教育委員会は、鶴川地区統合計画の変更を発表しました。

変更された計画では、鶴川二小(以下、二小)の建設にあたり、敷地北側斜面の土砂災害特別警戒区域の指定解除の工事が必要となり、計画のプレハブ建設・解体を行わず、統合年度を3年延ばし2029年とし、二小児童は鶴川三小(以下、三小)校舎に2029年から4年間通学、その間に二小に新校舎建設を行い、2033年度から新校舎開校。

それにより、三小は2026年に分割統合するのではなく、三小全部と鶴川四小(以下、四小)の統合(「中央小」、2029年に四小位置に完成する新校舎への移動に合わせて、現在の三小学区域一部にあたる児童を「東小」に統合を行う。

さらに、2033年から3年間かけて三小跡地に、鶴川二中(以下、二中)の真光寺中(以下、真中)との統合建設工事が計画されています。

〔問題点〕

- ・ 二小学区では、この計画の変更で、今の1、2歳児の学年は、2029年に三小校舎に4年間移動通学し、中学に進学後にも、二中拡張建設工事が重なり、教育期間のほとんどで学校建設の影響がある。二小校舎は、2007年にエコ修繕が行われているのにも拘わらず、4年間の工事は近隣住民にとっても避難施設がなくなるなどの心配がある。
- ・ 三小と四小の統合は、24クラスの予定となり、町田市の定めた適正配置学級数の最高数になること
- ・ 昨年12月市議会18号請願の文教委員会内において、新たな学校づくり審議会において、四小は統合対象校ではなかったため、アンケートを行っていないことが明らかになった
- ・ 上記と同様に、2036年の統合が予定されている真光寺中学においても保護者アンケートをしていない
- ・ 当初の審議会アンケートでは、二小、三小を統合校としており、その計画でアンケートを行っているが、三小と四小の統合になるのは、非常に大きな変更である
- ・ 2021年入学者は、どの学校でも6年時に統廃合となり(変更前)、とても精神的負担が大きいのに関わらず、入学後の6月に計画の説明を受けている(入学前に説明がなかった)
- ・ 二小・四小ともに支援級がある学校であり、新校舎建設中は三小校舎への通学負担が大きい
- ・ 四小→二小→三小(二中)の建設工事を鶴川で約10年連続的に行うことが、住民に周知できていない(その間の避難施設、子どもたちの放課後の校庭利用にも影響)

これだけの大きな計画の事業を行うのであれば、当事者、保護者並びに未就学児童保護者、住民への説明が必要ではないでしょうか。能登地震をみても今後どのような災害に見舞われるのかわかりません。また、平日の昼間は、基本的に保護者は働きに出ていることが多く、地域が子どもたちを守り、防災の核となる学校の役割は大きいです。

また、2020年10月に出されている審議会アンケート結果をもっと活用していただきたい、加えて、この間の説明会などで出された意見は、すべて公開するなど、共有できるよう努め、進めていくことが民主的ではないでしょうか。

【請願項目】

「まちだの新たな学校づくりに関するアンケート」を鶴川二・三・四小、鶴川二中・真光寺中で適正に行い、結果をもとに地域住民も含めた開かれた議論を求めます。